

平成30年度 道徳科実践・研究計画

部 員	○小室真紀 大山光子 小松田ひかり 小林葉子 鎌田雅子 石川優子
-----	----------------------------------

研究テーマ

道徳的価値に照らして、より深く、より豊かに考え、
自己の生き方を見つめ直す子どもを育む学び

1 研究テーマについて

目に見えにくい世界が目に見える世界を支える。「心の力」は目に見えにくい。しかし、心に宿るものが言動となって目に見える形を成していくと考えるのならば、道徳の時間は「心の力」を耕す濃密な時間でありたい。

本年度から完全実施となる「特別の教科 道徳」（以下道徳科）の目標の中で、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める」学習を通して道徳性を養うことが示されている。道徳的価値に照らしながら立場や見方を変えて考える「多面的思考」を通して、「より深く」道徳的価値を分析するとともに、仲間と議論し、多様な見方、考え方に触れていく「多角的思考」を通して自分の考えを相対化していくことを一体化した授業の積み重ねが、「心の力」を「より豊かに」し、自己の生き方を見つめ直すことにつながっていくのだと考える。

道徳的な課題を自分の問題ととらえ、自分のこととして真っ向から向き合っていく「自律した学習者」を支える基礎となるのが仲間との学び合いである。道徳科では、道徳的価値について様々な方向からかかわることによって感性が刺激を受ける。その核となっていくのが仲間との語り合いの場である。教材から刺激を受け、仲間の考えに出会い、今までの自分の考えと重ね合わせていく。その三者が総合的に自分の中で反芻されていくとき、今までの自分の心のものさしでは測りきれない場面に遭遇する。葛藤が生まれる場面であり、感動が呼び起こされる場面であり、批判が生まれる場面である。自分たちの考えを掘り下げ、自分の考えを揺さぶっていく場となっていくだろう。心の根っここの力を揺さぶり、耕していく道徳科でありたい。

最終的に自分で決断するのが道徳科であるからこそ、自分を見つめ自分をふり返るに至る、仲間と「学びをつなぐ」語り合いの時間が心を耕していく要となっていく。集団相互の高まりの中で、自分自身も高まっていくことが自覚的になる子どもの姿を見取ることができる教師集団を目指し、「心の力」をはぐくむ道徳科の時間を積み重ねていきたい。

道徳科における「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のようにとらえる。

- ・ 教材の登場人物への共感的追求から広げ、その行為やその背景にある思いについて語り合う姿
- ・ 仲間との学びの中で多様な考え、多角的な見方に触れ、気付きを生み出しながら、自己の生き方を見つめ直す姿
- ・ 「対話」を通して道徳的価値をとらえ、自分の生き方の中で実現していこうという思いをもつ姿

2 研究の重点

(1) 子ども自身が問題意識をもつことができるための導入の工夫

子どもが進んで「考えたい」と思うような授業を展開したい。そのためには、子ども自身が自ら学ぶ道徳的価値について興味・関心をもち、自己との関わりを意識して学習に取り組むことができるように、子どもが自ら問題意識をもち、自分のこととして道徳的価値をとらえたり、より主体的にこれからの課題や目標を見付けたりすることができるような導入の工夫していきたい。

(2) 自己の生き方をより深く、より豊かにしていくための授業づくりの手立て

仲間との学び合いを通して、子ども自身が道徳的価値について自らの考えを深めることができるような展開を大切にしたい。仲間との学び合いの場が、子どもたちが自らの考えを多面的・多角的に吟味することができる場となるように設定したい。それが、道徳的価値を自己の生き方に反映しながら学びを深めることにつながっていくと考える。役割演技などの疑似体験的な表現活動や議論を取り入れた展開など、子どもが互いの考えを交流し深めていくことができるような授業の在り方を工夫していきたい。

授業の終末では、本時のねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめる時間を設定する。1時間という短い時間で子どもの変容を見とめることは容易ではない。学習過程の記録などを計画的にファイルに集積して、子どもたちの道徳的諸価値に対する変容の評価に活かしていきたい。

道徳科で育みたい「見方・考え方」を、「道徳的価値について自己とのかかわりをふまえて多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方について見つめ直していく」ことととらえ、授業を構想していきたい。

3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳部会 ・ 附属中学校公開研究協議会(6/1) ・ 附属小学校公開研究協議会(6/8) (小室：5 B)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・研修の計画、部内組織の確立 ・ 小中連携 共同実践研究
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究紀要原稿執筆 ・ オープン研修会(小室：5 B) ・ 授業参観での授業提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中連携 共同実践研究 ・ 実践・研究のまとめ
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部内研修会 ・ 道徳部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通して、研究の方向性の確認 ・ 重点事項の検証 ・ 年間指導計画の見直し ・ 次年度の実践・研究計画の立案